

NPO 法人

小金井経済学大学

第 20 号 平成 25 年 1 月

だより

自分たちで学ぶ場を作ろう、 と十五年

代表理事 五十嵐 京子

平成十年三月設立の当大学はまもなく十五周年を迎えます。すでに三四〇回の講義を実施してきました。多くの皆様のご協力で続いてきたことに感謝です。初心を思い出してみると、始めた動機のひとつに地元小金井を多くの方に知っていただきたいという思いがありました。小金井だけでなく多摩は転出入の多い地域です。知らない町に来て、またすぐ別の町に転居という方も多いでしょう。縁あつて小金井にいらっしゃる方に、小金井のことや小金井に住んでいる人のことを知ってほしいという思いです。著名な方が小金井に住んでいる、と知って何か誇らしい気持ちになつたり、小金井に愛着を感じ

たりすることがあります。十五年間でそんな望みが少しはかなつたかなと思います。

さらに、コツコツと熱心に探究心を持って追求するすごい人がいることも発見でした。結局、こうした方々に教えられることが多い十五年間だつたと思います。学ぶ喜びがあり、すばらしい講師と出会う喜びが続けられた原動力だつたと思います。

人間の生活には常に学ぶということが欠かせません。例えば料理や語学などは必然にかられての学びかもしれませんが、必要なときに必要なことを学ぶのが一番身につくようです。しかし、それだけでなく人間には知らなかつたことを

知る喜びもあり、熱心に当大学に通われている方々はそれを求めているのでしよう。

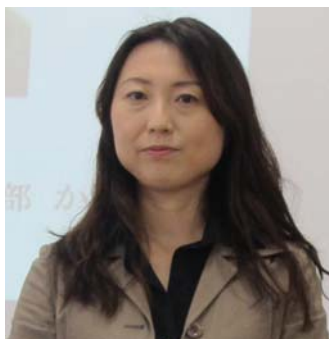
運営も講師も皆ボランティアで続いてきた当大学ですが、運営する側、お世話をする側にも多くの方に参加してほしいとも思っています。向き不向きは多少あるかもしれませんが、広く知識を持ちたいと思っている人には向いている活動です。自分も楽しみながら人のためにもなる生涯学習活動は、仕事をリタイヤした後の生活に心地よい刺激をもたらす時間になることでしょう。是非、勇気を持つてご参加を！



食べることが楽しく生きること

ささげ

料理家 雀部 かおり



第 323 回講義 4 月 1 日

「私がお役に立てるだろうか？」

講師をお引き受けした時に思ったことです。今まで私は、子育て世代に向けての料理教室や講演会の経験はあるものの、私よりも先輩の方々に食育の話をするのは初めてでした。どんな情報を伝えることができるか？食の重要性を再認識する場になるだろうか？と、あれこれ思案したものです。

最終的に落ち着いたのは、「食は楽しいものだ！」という結論でした。食べることが生きること、直結します。殺伐とした心では、どんなに栄養バランスがとれていても、豊かな食事とはいえません。どのような切り口からでもいいから、まずは楽しんでほしい…この気持ちを胸に講義をさせていただきました。

聴講生の皆さんは、とても熱心でいらして、学ぼうとするパワーがひしひしと伝わってきました。私の講義は難しい話は一切なし。具体的なことと、誰にでもわかることだけがウリです。食事に関するだけでなく、健康や脳科学の話などからのアプローチもしてみました。食は様々な分野とつながっていて、そ

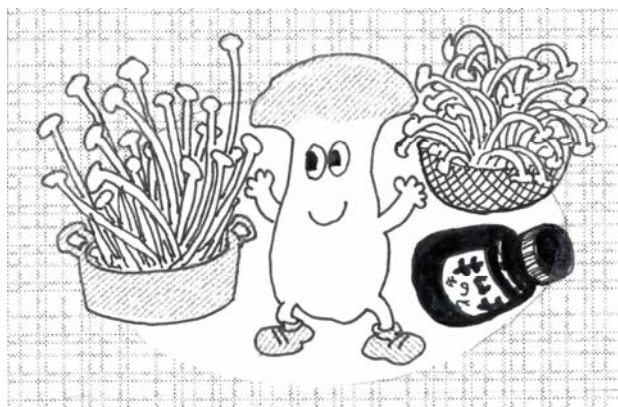
の範囲はとても広いものです。それぞれのアンテナに引っかかるところから、興味・関心を持っていただけたら幸いです。

当たり前と思うことでも違う視点から見れば、新鮮に感じるもの。私はその違った視点になればいいと考えました。そうか！と思う気づきの場です。

反省ばかりでは楽しくありません。今まで元気であられたのは、この体あってこそ。人は食べたものからできているのですから、よくがんばったなと褒めてはいかがでしょうか？

講義後みんなで試食

えのきだけをさっとゆでて、キムチの素でお好みの辛さになるようにあえたものをいただきました。歯ごたえがあってとてもおいしかったです。



旬の食材を食べられる喜び。

料理に挑戦することによって得られる達成感。健康でいられることのありがたさ。食を通して楽しめることや、新たな発見はまだまだまだたくさんあります。日々の暮らしの中に身近にあるのです。気負うことなく、ご自分のペースでぜひ食の世界を楽しまれてください。

クラシックカメラの講演に呼ばれて

クラシックカメラ愛好家 山縣 敏憲



第331回講義 8月5日

講演などもしておりましたが、最近ではめっきりその機会は減っておりまして。

減った理由は、今更フィルムカメラの話でもありませんので当然でしょう。ですから今頃になつてクラカメラの講演をしても、人が集まると思えませんでした。

しかし、実際に当日になつてみたら50名近い方が会場に来ておられ、普段の聴講者の人数より多かつたようで、椅子が足りずに立ち見の方までおられました。更には皆さんが何と熱心なことか。私がサンプルとして持参した何台かのカメラ達を食い入るように眺めている女性の方もおられました。

後日、会の方から「登録メンバーさん意外にも数名が参加さ

れていまして、大盛況でした」と聞いて、まだクラカメラに興味がある方も多くいるのだと安心した次第であります。

次回がもし許されるなら、『孤高のカメラ達』などと題して、フランス、スイス、イギリス、アメリカ、ドイツなどのカメラ先進国でのカメラ誕生の秘話などをお話できたらと思います。また、上手な写真の撮り方についても、時間が無かつたのでゆっくりお伝えできませんでしたので、これも機会があれば実際にモデルさんを使って人物写真の撮影を生で見つて勉強して頂きたいと思つていきます。

小金井雑学大学様の益々の発展を心よりお祈りしております。



世界初の一眼レフ、スゴルト(ソ連)

15周年記念講演のお知らせ

「再選されたオバマ大統領とアメリカの黒人」

北村 高氏 (松蔭大学准教授)

4月7日(日) 2時~3時15分

会場は市民交流センター小ホールです。

どうぞ、お楽しみに



タイ国王即位五十周年記念に700台作られた黄金のLeica-M6

ドイツ兵捕虜と日本人との文化交流

習志野市職員 星 昌幸



第 337 回講義 11 月 4 日

なかった。なぜあんな人を選んだのか? 「役所が用意した畑(園芸コースがある)の土質が悪い」、果ては「なぜ我々に机など運ばせるのか」等と、容赦なく要求をぶつけてくる」。

市民が自主的に場所を見つけ、講師を選び、「三タダ主義―講師料・受講料・場所代すべて無料」で運営している市民大学がある…。そんな噂を聞いていた。私も市民カレッジの運営に悩まされた経験があるからである。こちらの実情は「市営」カレッジであり、講師の手配、会場の設営、印刷物の印刷等、すべて休日返上で我々、市職員が行っている。受講生も「今回の講師は面白く

あるので雑学大学のことを聞いて、何と志の高い市民大学があるものかと思っていた。ところが先日、思いがけず講師としてその教壇に立たせていただく荣誉に浴した。私はあえて我が町・千葉県習志野市の郷土史から、大正のドイツ捕虜のことを取り上げたのだが、彼らドイツ兵が收容所の中でオーケストラを始め、劇団を始め、スポーツクラブや園芸を始め、果ては黒板を置いて「捕虜大学」まで始めてしまっ

た写真を見ていただいたところ、会場からしきりに驚嘆の声があった。收容所の中であり余る時間を使って、学びたいものを決め、仲間から講師を見つけ大学を作ってしまったのだから、言ってみればこれは雑学大学にとって「先輩」である。我が身の不運を嘆くのではなく、この暮らしを自分らの力で楽しくしてやるぞと決心したとき、收容所は決して監獄ではなく、日本人も敵ではなくなつたということなのだろう。

縁もゆかりもない、よその町の郷土史の話。しかしそれが好評だったとすれば、日頃から自主的な学習を実践されている小金井の皆さんだからこそ、このドイツ兵の学ぶ姿に共感されるものがあつたのだろうと考えている。小金井雑学大学のますますのご発展を祈つてやまない。

編集後記

穏やかな新しい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

今回はお料理の話の雀部さん、カメラの話の山縣さん、ドイツ兵收容所の話の星さんに原稿をお願いしました。お忙しいところ本当にありがとうございました。

また、小金井雑学大学を立ち上げた代表理事の五十嵐が、生涯学習について寄稿いたしました。これからも小金井の生涯学習のために理事一同、がんばります。

雑学大学では理事を募集しております。是非、仲間になってください。お待ちしております。

田中 留美子記



発行責任者 五十嵐京子